



THE 50th ANNIVERSARY OF AD SOKEN 1967-2016

アド装建株式会社設立50周年記念誌

THE 50th ANNIVERSARY OF AD SOKEN 1967-2016

アド装建株式会社設立50周年記念誌

ごあいさつ



アド装建が設立された昭和42年当時は、街も人もゆっくりとしていた時代。私も「とにかくやるしかない」、その思いで必死になって仕事に精進してまいりました。

それから幾星霜、20世紀後半から21世紀初頭にかけてのこの50年間というもの、モータリゼーションの急速な進展により物流の動きに大きな変化が生まれ、コンピュータの発達により国内外を問わずグローバル化が一気に推し進められてきました。

市場経済における競争社会となった現在の日本において、数十年単位で事業を継続していくためには常に情報を先取りし、時代の変化に柔軟に対応していかなければなりません。

しかし、その前提として変わらずに必要なのはお客様からの信用です。一般的に株式会社としての最終的な到達点として考えられているのは、株式の上場でしょう。しかし、それも企業としての信用を得ていなければ実現できません。

50周年を契機として、これからも皆様のお役に立てる会社、皆様から信用していただける会社であり続けるため、日々の努力を重ねてまいります。変わらぬご支援をお願い申し上げます。創業50周年のご挨拶とさせていただきます。

アド装建株式会社
代表取締役会長 玉淵道郎



アド装建は、2016年9月に創立50周年を迎える幸運を得ることができました。ご愛顧いただいたお客様、スタッフを支えていただいたご家族様、共に苦勞いただいた協力会社の皆様に心より感謝申し上げます。

私どもの社業は、専門知識と技術を持った工場製作スタッフと現場製作スタッフ、信頼できるパートナー企業を中心としたアナログの手仕事集団により製作された、逸品ものの集合体的施設づくりです。ただし、企業を永く継続する為には社会変化にともない、変化し続けることが必要です。私どもは、ただただ「お客様方のご要望に最も必要なモノをプロの目と手段で模索」し続けてきました。お客様方が時代のニーズに的確に対応し変化し続けてきたことで、我々も共に変化し続けられたと感じております。ですからアド装建の真の社業は、「お客様への満足の提供」なのかもしれません。

施設には必ず目的があります。発注者、利用者、スタッフ、この三者の満足度を高めることで、多くの人が集い、新しいコミュニケーションと物語が生まれる施設となります。業態ごとの専門的施設づくりが求められる昨今、多くの専門知識と技術、センス、サービスをチームワークで継続され、運営されているお客様方に心より敬意を表します。

時代の象徴的な施設づくりを担うアド装建のスタッフは常に、安全意識の保持、知識の習得、技術の習得、美意識の向上、創造力を養うことが求められます。「仕事はやささと人間力」をモットーに、今後とも精進してまいります。

アド装建株式会社
代表取締役社長 鈴木勝範

アド装建スタンダード

お客様が必要とするものをフルサポートするために、「品質は人がつくる」を信念に人材育成に注力しています。アド装建は「勤勉であること」「創造力と想像力を養うこと」「知識・技術の習得」「美意識の向上」をベースに、「最善の模索」を続けております。ここではその必須事項を踏まえたくうえで、日々の仕事の軸として考えていることをご紹介します。

企画・対応

1

- 見積力** 最速で高精度な、解りやすい御見積を提出。
- 起動力** 俊敏で強い組織連携で、きめ細かく対応。
- 製作力** 自社工場を有する確かな技術。低コストで丁寧な製作。
- 監理力** 時間・コスト・品質を効率的に総合監理。
- 現場力** 安全性・耐久性を重視し、規律ある作業環境を構築。

品質・解決

2

- 時間** プロ集団としての確かつスピーディーに対応します。
- コスト** 安定したコストパフォーマンスを達成します。
- 安全** 独自の安全への考え方と取り組みを日々行っています。
- 製品** 時代の潮流にあった製品をそれぞれの専門スタッフがご提供します。
- 現場環境** 常に整理整頓し規律ある作業環境と近隣への配慮。

サポート・サービス

3

- 执行力** たとえ営業中であっても、きめ細やかな配慮で工事を可能に致します。
- 保守力** 自社専門スタッフによる、敏速なメンテナンス対応。
- 提案力** 新たな価値観の想像と可能性の模索。
- デザイン力** 業種業態を超えた発想とシュミレーション提供。
- 設計力** 安全性や耐久性、メンテナンス性の模索と検証。



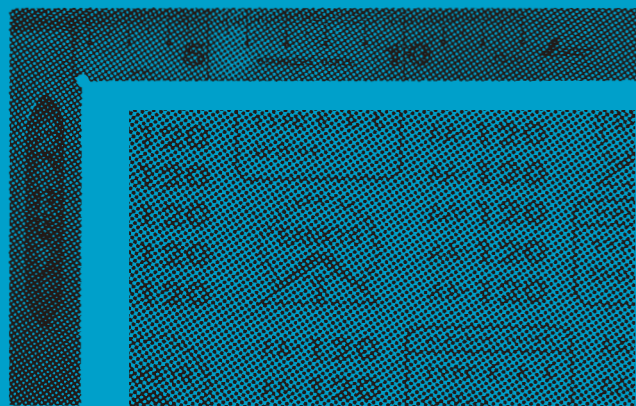
座談会：一人一人がプロであれ アド装建のこれまで・いま・これから

50年の歴史を支えてきたのは、お客様との信頼関係であり、社員一人一人のプロ意識によるもの。

現在活躍している社員が集まり、アド装建の過去、現在、未来について、それぞれが思うところの言葉を交わしました。

出席者

代表取締役社長 鈴木勝範／営業・施工監理業務 総業務長 武田孝夫／
営業・設計・施工監理業務 業務長 半澤裕貴／
什器・家具製作工場 家具職人・工場長 佐々木健／総務・経理 尾形良子



——まずはじめに、皆さんが入社した頃の思い出や会社に抱いた印象をお聞かせいただけますか。

半澤 (以下、半) 一番精神的に大変だったのは、入社して2年目に歌舞伎町に半年いたことですね。刺激が強かったです(笑)。

鈴木 (以下、鈴) 入社してすぐ仕事はできないものです。2年というのも早いほうで、だいたい5年、10年くらいかかりますね。

佐々木 (以下、佐) 私が入社した頃は、周りの年齢層が高かった印象があります。年配の上司から知らないことを教わるのは、新鮮で面白かったですね。

武田 (以下、武) 私は入社して1週間経ったところに、夜間工事が2、3週間続いて、失敗したなど(笑)。

尾形 (以下、尾) これまでも業種は異なるものの、事務職として働いていました。入社して早々の頃はなにも分からなかったのですが、書類のフォーマットがはっきりとあるので、仕事が進めやすかったですね。



鈴 私は元々デザイナーとして入社したんです。ところが初めて現場に行って、それまで座学で勉強してきたものが根底から覆されました。以来、デザインと設計、マーケ

ティングを合わせて考え、動くように意識し、ようやくここ20年くらいでなんとかそれができるようになってきました。



——次に、現在お仕事をする中でやりがいを感じていることを教えていただけますでしょうか。

半 私はこれまで何社か同業種を転々としてまいりましたが、おそらくこの会社の勤務歴が一番長いんです。何故かという、自由にさせてもらっているからだと思います。



佐 私も半澤さんと同じことを感じています。自分は家具をつくる仕事ですが、別注家具なのでつくりかたを毎回考えなければいけない。そのつくりかたを任せてもらっているので、うまくいったときにやりがいを感じます。

武 自由にやらせてもらっている部分はあるんですけど、その自由ってというのは厳しいものですね。要は全部自分の責任。自由なんだけど、責任は果たさなくちゃいけない。そのぶん、メリハリをつけて



仕事ができる会社だと思う。

尾 私は皆さんと違って現場を持っていませんが、街に出たときに会社で担当した物件を見ると嬉しくなります。やりがいとは違うかもしれませんが、自分も携われたのかなと思う瞬間です。

鈴 弊社の仕事は自己責任で行っているものとはいえ、全員がちゃんと責任を果たしているので、事故もトラブルも少ないと思います。人が主役の会社だと言えるかもしれません。



——一人一人がプロだということですね。

鈴 そうですね、全員がプロとして仕事をしていると思いますね。皆さんそれぞれにホームグラウンドがあって、そこでお付き合いをしているお客様がいる。テリトリーの範囲があるというよりも、自分がやれるところまでやるということです。スケジュールも含めて、一人一人、自分で自分のことを決めているんです。

——それでは最後に今後のことについて伺います。たとえば10年後、20年後に会社やご自身がどのように成長していきたいと思うような理想の姿はありますか。



半 一つの業種にとらわれすぎずに経営を続けていければと思います。それから、10年後には若い社員たちにも子どもができてははずです。その子どもたちにも、自分の父親の会社に入りたいと思ってもらえる、そんな会社になっていければと思います。

武 もちろん会社の規模が大きくなるのが一番いいのですが、やはり継続が大事かなと思いますね。

佐 会社としては継続することもそうだけど、もっと働きやすい職場環境になればいい



のかなと。そして社会的な評価も得られれば一番じゃないかな。

尾 毎月思っているのですが、特殊なケースを除けば未払いがないんです。入金も必ずあるし、支払いも遅れない。そういったお客様との信頼関係が大事だと思うので、自分自身も仕事をするうえで気をつけて、10年、20年経ってもそのままいいところが続いていければと思います。

鈴 50周年を迎えられた幸運を噛みしめると同時に、次世代へつなぐことも大事な仕事です。専門的技術を身につけた優れた人材を世に送り出し、活躍の場をともに創り出すことが、この業界への恩返しと考え、人材育成にも注力しています。果たして5年、10年後にどんな価値あるモノを創造し、どんなワクワクする価値をつくっているのでしょうか。



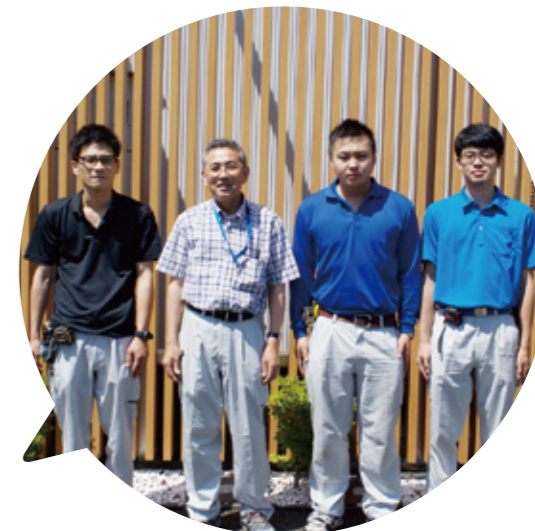


社員インタビュー

社内・社外のさまざまな現場で活躍しているスタッフたちは、どのような経験を積んできて、どのようなことを考えているのでしょうか。施工部、工場、業務、それぞれのセクションで業務を担う方々に、アンケート形式で答えていただきました。

施工部編

各事業者との打ち合わせ、家具・什器の納品や搬入、取り付け施工工事から必要備品・材料等の発注まで行う、現場を支える屋台骨です。



Q1 これまで一番苦労した仕事を教えてください

20年以上前のことですが、昼夜逆転の現場が多かった時期が続き、生活のリズムをつくるのが大変でした。

Q2 普段、業務で心がけていることはありますか

お客様に納得していただける仕事をするため、なによりも安全性を大事にして、細かな確認を欠かしません。

集中して取り組むのはもちろんのこと、広い視野を持つことを意識しています。

Q3 今後取り組んでみたい仕事やご自身の成長したい姿を教えてください

いくつになっても、どれほど経験を積んでも、まだまだ学ぶことがあります。分からないことを学ぼうとする姿勢が大事なのだと思います。

分からないところをそのままにしておかないことです。

目の前のことを一生懸命やる姿を見ることで、後輩たちも学ぼうと思うので、背中を押される気持ちで頑張っています。

必需品紹介 1

充電式ドライバー

穴あけやネジ締め等に使用する電動工具。大型家具や硬い素材への長いネジ締めにはインパクトドライバーを使用し、穴あけや短いネジ締めにはドリルドライバーを使用します。現場での取り付け作業・工場での家具什器製作、どちらにおいても必需品です。



工場編

家具・什器に関する製作、納品、発送、修理、修復、搬入、取付工事に至るまで幅広く対応します。

Q1 これまで一番苦労した仕事を教えてください

すべてがオーダーメイドでの製作なので、毎回悩みますね。突出して苦労するというよりは、いつもなんらかの課題に取り組んでいるような感じです。

Q2 普段、業務で心がけていることはありますか

先輩から教わったことを、一回で理解することです。

納品期限は当然のこと、一日一日、目標を立てて取り組んでいます。

ものづくりの仕事なので、クオリティを保つのは当然ながら、つくって終わりではなく、現場の仕事が滞りなく動くように意識しています。

必需品紹介 2

トリマー

溝切りや面取りなどのトリミングや装飾加工を施すための電動工具。トリマービットと呼ばれる先端工具を高速回転させることで木材を切削します。用途や制作物によってトリマービットを付け替えて使用します。



Q3 今後取り組んでみたい仕事やご自身の成長したい姿を教えてください

これまで先輩方に教わったことをいずれ次の世代へと受け継いでいけるように、いまのうちに基本をしっかり学ぶことです。

全体的にスキルを向上して、どのような製作にも対応できるようになっていきたいです。

業務編

お客様との打ち合わせ、設計・デザイン製作、図面製作、工程表製作、必要な各種行政手続き、現場管理監督、現場引き渡し、アフターメンテナンスまで担当します。

Q1 これまで一番苦労した仕事を教えてください

基本的に楽な仕事はなく、毎回毎回違う意味でプレッシャーがあります。中でも思い出深いのは東日本大震災後に、材料が手に入らない状況で行った仕事です。

3週間くらい夜間工事で昼夜逆転生活が続いたときですね。

仕事で求めていることを理解して遂行するプレッシャーが大きいです。

Q2 普段、業務で心がけていることはありますか

図面を描く段階で、どうしたらよりいいものになるか、試行錯誤しながら落とし込んでいっています。

社内では誰でも分かる適正な書類作成。現場では自分たちの体調管理も大事ですが、協力会社の方たち、一人一人の体調を私たちがケアすることです。

お客様にいかに満足してもらうかをまず優先して考え、動いています。

Q3 今後取り組んでみたい仕事やご自身の成長したい姿を教えてください

新人を育てて、上司たちがもっと別のことをできる状況をつくりたいです。

会社である以上、各個人の強みや専門性を高めて、よりいいものをつくってあげたいと思います。

必需品紹介 3

スケール

家具や建物の寸法等を測定する際に使用する道具。測る場所によっては大きめの巻尺やレーザー距離計を使用します。現場・工場・設計、どの工程においても必需品です。



アド装建50年史

1967年の設立以来、50年にわたり仙台市で営業を続けてきたアド装建。

ここでは、その歴史を写真とともに年表で振り返ります。

1967

1970

1980

1990

2000

2010

2016

▼1967年9月 会社設立

▼1970年10月 資本金を倍額増加し、400万円とする

▼1973年7月 本店を仙台市宮城野区銀杏町12番21号に移転すると同時に、資本金を200万円増資し600万円とする

▼1979年7月 一層の営業拡充を期し、仙台市東部工業団地内に本店を移転



創業時の社屋（自動車会社の2階）



1979年当時の建築パース

1991年2月 資本金を700万円増資し1,500万円とする▼

1991年8月 アド装建(株)プレーンセンターを開設する▼



アド装建プレーンセンターのロゴ



アド装建プレーンセンターが入居していた斎木センターBLD（8階）

▼1992年 八重山諸島へ社員旅行



▼1994年 韓国へ社員旅行



▼1997年 ヨーロッパへ社員旅行



2005年8月 第二工場増設▼

2007年12月 本社増床及び事務棟▼
全面改修工事に伴い、プレーンセンター統合



2016年8月 datenamori HP 開設▼



オリジナル什器専用HP

2014年3月 施工部事務所開設▼



2014年8月 本社3階及び第2工場改修工事▼



COLUMN

玉淵道郎会長の奥様であり、1999年まで
総務・経理として勤務されていた
玉淵江美さんに、創業当時を振り返って
お話を聞かせていただきました。

創業時はある自動車会社の2階をお借りして、オフィスとしていました。小さな会社でも元請けにならないと駄目だということで、大きな企業から仕事をいただけるように営業をしていました。ある会社には、1年間社歌を歌うだけに通い続けたこともありましたが、その結果、お仕事をいただけるようにもなったりして。そのような、地道で丁寧なお付き合いを重ねてきたんですね。事務員は私一人なのに、会社の中に誰もいない状態で駆けずり回っていたんです(笑)。その頃から、社員一人一人が営業から集金まで、責任を持ってなんでも仕事ができるように育ててきました。大切なのは、社員の気持ちを一つにすることだったと言えますね。



信頼できるパートナー

案件の規模、完成までの時間、施工エリアなどの条件ごとに、現在120社以上の企業様に最善のパートナーとして携わっていただいております。50周年記念誌を制作するにあたり、その中でも30年以上の長いお付き合いのある方、親子2代にわたり支えていただいた方から印象深いエピソードなどを交えてご寄稿いただきました。

有限会社今長塗装店 代表取締役 今野長一様

私は昭和55年頃からお付き合いをさせていただいています。什器や部材塗装のお仕事を中心にお受けさせていただき、特にテーブル、机などの鏡面塗装を行うことが私自身の技術向上にもつながり、お客様のニーズにあった仕事ができるようになりました。当初、私は工場を持っていなかったため、アド装建様の駐車場でお仕事をさせていただいておりました。アスファルトまで塗料が吹きつけられ、鮮やかな色に染まったことを思い出します。日中で仕事が終わらなかったときには、工場の一角をお借りさせていただきました。おかげさまで、その翌年には自分の工場を建てることができました。印象深いのは、昭和61年8月の台風のときのこと。工場が水浸しになり、どうしようかと思っていたときに、アド装建様から片付けのお手伝いに来ていただきました。あのときは本当に助かりました。これからもよろしく願いいたします。

有限会社亀井建具製作所 代表取締役 亀井富保様

弊社は木工・家具・建具の製作、及び現場取付工事のお仕事を受けております。これまで約30年間ほどお付き合いさせていただいておりますが、中でも北海道、沖縄、ハワイ、グアム、韓国などへの慰安旅行やゴルフに参加させていただいたことが印象に残っております。社員の一人が旅行中にオニヒトデに刺されたり、石垣島のプールに添乗員を落としたり。ゴルフでは、鈴木啓一専務(当時)がホールインワンをしたことはいまでも忘れられません。ほかにも、書ききれないほど数多くの思い出がありますが、今回はここまでにします。もちろん、仕事に関しても長いお付き合いを通して、弊社の若い人材も育てております。これもアドさんがあってのことと言っても過言ではないと思います。これからも、このお付き合いが何十年も続きますよう。最後になりましたが、設立50周年、誠におめでとうございます。

大栄コールドチェーン株式会社 取締役専務 仙台営業所所長 佐藤剛様

アド装建さんとは、弊社の仙台営業所が出来て間もない平成7年頃からお付き合いが始まり、以来20年以上お世話になっております。鈴木社長をはじめ、社員の皆様のご指導の下、非常に良い関係を築いております。初めは空調工事をお受けし、その後換気工事、総合的な設備工事のプランニングをまかせていただくまでになりました。工事予定の案件があれば、お客様に喜ばれるよう担当者と密に打ち合わせを重ね、予算に合わせられるようお互いに知恵を絞り、双方が納得できるプランニングをするように心がけております。アド装建さんは総合的な内装のプロ集団。文化施設、公共施設、アミューズ、マンションリノベーション……。仕事は多岐にわたり、私の知識だけでは追いつかない分野の仕事も多くありますが、その際に勉強させていただいたことが、自分の糧となりました。創立50周年にあたり、今後ますますのご繁栄を祈念申し上げます。

有限会社オク・インテリア 代表取締役 奥田智成様

弊社先代社長の佐々木と鈴木啓一専務(当時)はアド装建入社前からお付き合いがあり、それがいままから45年ほど前と聞いております。代替わりしてからも引き続きご愛顧いただき、いまでは14期目となりました。当時から県内外問わず施工させていただいておりましたが、ダイワ関連の現場では関東、上越方面の案件も受けていたそうです。お仕事をするうえで、店舗工事ではつきものではありますが、閉店後の改修や引き渡し直前の仕様変更など、いかに迅速に対応できるかが勝負になりますので、一通り終わった際には感慨深いものがあります。また他業種の業者さんも皆さん素晴らしい方々ばかりなので、顔を見るだけで連携を取れることも非常に強みであり、現場も楽しいです。今後もより迅速に、より良い品質をモットーにお付き合いさせていただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。

有限会社ツワイスシステム 代表取締役 山田敏郎様

設備工事一般の設計施工、給排水ガス設備でお世話になっております。個人的には昭和61年頃からお付き合いさせていただいておりますが、会社としては平成7年からになります。そもそも、弊社の名付け親はアド装建株式会社ブレーションセンターの鈴木所長(現社長)です。そのブレーションセンター時代、仙台の歓楽街・国分町で数多くの飲食店舗を総合プロデュースされており、弊社も設備工事で一、二年間ほど毎日のように国分町に通ったことが記憶に新しいです。新しい店舗づくりを進める中で苦勞することもありましたが、お客様に喜ばれるよう、そして工事が無事完成するよう、各業者の皆様と共に、楽しく仕事をさせていただきました。

細畑電気 代表 細畑康男様

お付き合いが始まったのは、いままから32年ほど前のこと。以来、電気工事をお受けさせていただいております。仕事を通じて社長をはじめ現場管理の社員皆さんから信頼を得ることができたおかげで、これまで続けてこれたと言っても過言ではありません。現場では無理だと思った工事も、社長の後押しで随分助けられました。また、会社の慰安旅行で沖縄に同行させていただいたことは忘れられません。それが私にとって初めての飛行機への搭乗でした。それから、24年ほど前のことですが、私の家が引っ越しをした際に、社長をはじめ皆さんが手伝いに来てくれたときは驚きました。本当に感謝感激でした。

COLUMN 2

アド装建の規律と安全

アド装建では工場内の道具、材料をオリジナルのピクトマグネットプレートで分かりやすく整理整頓しています。余った塗料や補修用塗料もオリジナルの塗料ラベルとボトルで案件と日付を記録し保管期限を決めて管理。また、強い地震が発生した際に備え、棚はすべて扉を付け、壁に埋め込み固定し、安全を確保しています。現場等に運び出す材料や製作した家具・什器は剥がしやすい素材によるステッカーで、色と柄ごとに分類、整理し、運び間違いを防止しています。そして、現場専用ラジオを使用し地震や気象などの安全に関わる情報をすぐに知ることができるようにしています。





会社概要

アド装建株式会社

〒984-0001 宮城県仙台市若林区鶴代町4番72-2号

Tel/Fax 022-236-9225 (代) / 022-284-9845

創業 昭和42年9月

資本金 1,500万円

業務品目 仮設工事一式、解体工事一式、産業廃棄物処理一式、木造、鉄骨造建築工事一式、内外装造作工事(木質、軽量鉄骨、床、壁、天井)、内外装仕上工事一式(乾式、湿式、金属、タイル)、建具製作取付工事一式(木質、スチール、アルミ)、厨房工事一式(組積、モルタル、防水、ステンレス)、什器備品家具製作取付組立工事一式(木製加工什器製作、スチール加工什器製作、ガラス加工什器製作)、オカムラ製品販売、厨房機器販売、インテリア備品製作取付工事一式(カーテン、各種ブラインド、各種家具備品)、サイン、アクリル製品製作取付工事一式、電気設備工事一式(キュービクル、動力、電灯、ショーケース)、空調換気設備工事一式(フード、ダクト、換気、エアコン)、給排水給湯ガス設備工事一式(上下水道、給湯機器、各種ガス)、衛生設備工事一式(機器納入、交換、接続)、防災設備工事一式(機器、消火器、申請等)、外構、植栽工事一式、調査、企画、デザイン、設計、施工、アフターメンテナンス、各種申請、検査立会他、皆様のご要望に限りなくお応えいたします。

THE 50th ANNIVERSARY OF AD SOKEN 1967-2016

2016年11月発行

企画：アド装建株式会社

編集：高橋創一

デザイン：imamoi

印刷：東北特殊印刷有限会社

発行：アド装建株式会社

